快適なくらしと
豊かな自然や食が調和する
住み心地のよいまち





にし

西区役所だより 第471号
令和8年(2026年)11月15日
毎月第1・3日曜日発行
編集・発行　新潟市 西区役所 地域課
〒950-2097　西区寺尾東3丁目14番41号
☎025-268-1000(代表)　FAX025-269-1650
https://www.city.niigata.lg.jp/nishi/

西区　人口：149,552人(-42)　男：71,857人(-26)　女：77,695人(-16)　世帯数：70,873世帯(+26)※令和8年10月末現在(カッコ内は前月比、住民基本台帳による)　面積93.87㎢

国際湿地都市
NIIGATA

水鳥たちの楽園 佐潟

― ラムサール条約登録30周年 ―

冬の訪れとともに、たくさんの水鳥が集まる佐潟。水面を優雅に泳ぐコハクチョウや、群れをなすカモたち。その姿を眺めるだけでも楽しいものですが、鳥たちの暮らしを知ると、いつもの風景がもっと面白く見えてきます。

佐潟がラムサール条約に登録され今年で30周年。そんな節目を迎えた今回、長年にわたり野鳥を観察してきた佐潟ボランティア解説員の会、川嶋会長に冬の佐潟の魅力を聞いてきました。

問 西区 地域課 文化・スポーツ担当(☎025-264-7193)

朝夕に広がる、白鳥たちのドラマ

冬の佐潟に飛来するコハクチョウは、朝になると餌を求めて周辺の田んぼへ飛び立ち、夕方にはねぐらの佐潟へ戻ってきます。

「暗くなりかけた頃に戻ってくるよ。昼間は田んぼでみましょう、と案内するんです。」と川嶋会長。羽音や鳴き声を響かせながら、次々と空を舞う姿は冬ならではの光景です。




川嶋 宣彦さん
佐潟ボランティア解説員の会 会長
40年以上にわたり国内外で野鳥を観察してきました。



一羽の鳥から広がった世界

そんな川嶋会長が野鳥に夢中になったきっかけは、家族旅行で訪れた北海道での出来事でした。東京の大学生たちがボランティアで開いていた早朝の野鳥観察会。何気なく参加すると、目の前に現れる鳥たちが次々と紹介されました。

「スズメだと思ったら、違う鳥だと言われてね。こんなにいろんな鳥がいるのかと驚いたんです。」

さらに、見ず知らずの家族に熱心に鳥の魅力を教えてくれる大学生たちの姿にも心を動かされたといいます。

帰宅後は双眼鏡を片手に身近な鳥を観察するようになり、やがて国内外へ足を延ばすほど夢中に。

「詳しい人は、親切に教えてくれるんですよ。そうすると、だんだん分かるようになって、もっと見たくなる。」

一度知った鳥が、次は自分の目で見つけられる。そんな小さな喜びの積み重ねが、40年以上続く楽しみになりました。



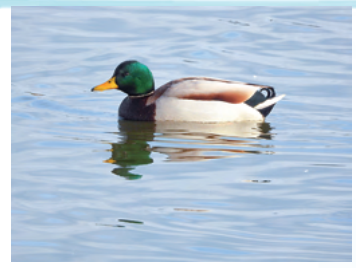


普通のカモにも、面白さがいっぱい

佐潟の魅力は白鳥だけではありません。水面には、さまざまな種類のカモたちが集まります。「カモには潜って餌を取るものと、水面近くで餌を取るものがいるんです。」水中に潜るカモもいれば、逆立ちするように水草などを探すカモも。種類によって餌の取り方も、泳ぎ方も違います。羽の色や模様もさまざま。季節が進むとオスの羽が鮮やかになり、見分ける楽しみも増えていきます。

「私たちは珍しい鳥を探したくなるんだけど、普通のカモを見ているだけでも楽しいと思うよ。」

鳥の名前が分からなくても、まずはじっくり眺めてみること。何気ない仕草の中に、思いがけない発見が隠されています。


マガモ


ミコアイサ
(手前オス、奥メス)

鳥たちが安心して休める佐潟で

長年、佐潟を見守ってきた会長は、水鳥を取り巻く環境の変化も感じています。かつて水面を覆うほど茂っていたハスが減り、鳥たちの餌や隠れ場所が少なくなった時期もありました。

それでも最近はハスが再び見られるようになり、川嶋会長はその変化を喜んでいます。

「昔は人が近づくと、鳥たちはすぐ隠れてしまった。今は近くにいても逃げなくなったね。ここが安心できる場所になっているんだと思う。」

そしてこれからの佐潟について訪ねると、「鳥たちが安心して休める場所であり続けてほしい」と話してくれました。

かつて一度の観察会をきっかけに、野鳥の世界に魅了された川嶋会長。今度は解説員として、その楽しさを訪れる人たちに伝えています。

冬の佐潟には、朝夕の空を彩るコハクチョウや、水面を泳ぐさまざまなカモたちが待っています。鳥の名前を知らなくても大丈夫。解説員と一緒に観察すれば、今まで気付かなかった発見があるかもしれません。

この冬、あなたも佐潟で野鳥観察の第一歩を踏み出してみませんか。

野鳥観察に興味を持ったあなたへ



冬の佐潟探鳥会

ハクチョウが出かける前に会いに行こう！

日 12月6日(日)午前7時～
場 佐潟水鳥・湿地センター
人 30人(小学3年生以下は保護者同伴。応募多数の場合、抽選。)
持 動きやすい服装、筆記用具、双眼鏡(貸出可)
申 11月25日(水)までに申し込みフォーム(右の二次元コード)より申し込み、または電話で佐潟水鳥・湿地センター(☎025-264-3050)

コース紹介

	ゆったり観察コース	じっくり探鳥コース
時間	7:00～9:00	7:00～9:30
ルート	佐潟水鳥・湿地センターから野鳥観察舎まで往復	佐潟周辺(約5km)を散策
対象	初めての人、基本的な解説を聞きながら観察したい人	鳥の特徴や行動などを詳しく観察したい人

終了後はドリンク引き換え券を配布します



このイベント以外にも、毎月第2・4土曜日にボランティア解説員と佐潟の散策ができます。詳細は区ホームページ(右の二次元コード)をご確認ください。

★申し込みが必要で、申込方法が書かれていないものは、電話でお申し込みください　★郵便物は「〒950-2097 西区役所○○課」で届きます(郵便番号は区役所専用です)